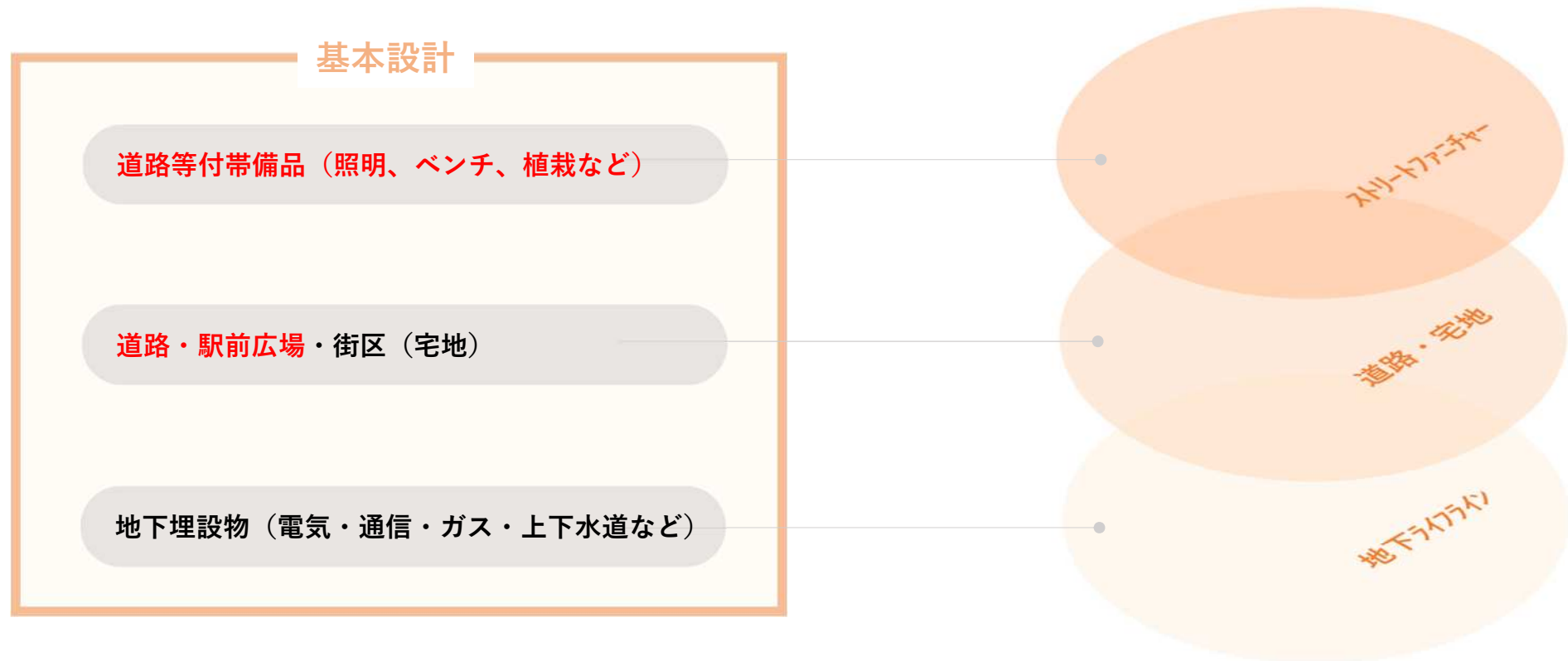


湯本駅周辺土地区画整理事業における基本設計(検討内容)について

いわき市 都市建設部 都市整備課 区画整理係

基本設計について

駅前エリアについては、新たな賑わいや交流のプレイスづくりに向け、新しいまちの基盤（道路）を整備することが必要となります。基盤整備に向けては、土地区画整理事業の制度を活用し進めることとしています。
基本設計は、その基盤整備に必要な各要素の大まかな内容を決める作業を行うものです。



基本設計の対象エリア

基本設計は、以下のエリアについて検討します。



基盤の整備に向けた考え方

駅前には、魅力あるまちの玄関口として、多くの方々が訪れる居場所の1つになります。

01

拠点性・滞在性

駅前に整備する道路や駅前広場は、交流拠点エリアと同様「みんなが過ごしたいように過ごせる場所」の空間づくりを意識して検討します。

02

安全性・快適性

駅前広場は、公共交通などモビリティの拠点にもなります。安全面はもちろん、快適に移動できる空間づくりを検討します。

03

柔軟性

道路や駅前広場は、ただ通過するだけの場所ではなく、これから様々な活動が行われる場所にもなります。様々なニーズに対応できる柔軟な公共空間づくりを検討します。



検討状況（道路）

道路についてもプレイスの1つとなるよう、歩行空間と滞留空間の共存を意識しながら検討を進めています。

01

道路空間の再配分

基盤整備のエリア内の道路については、車道と歩道の幅員配分の変更や新たな歩道設置など、歩行者の快適性や滞留性を意識して検討を進めています。



植栽プランターやボラードなどのストリートファニチャーを適度な間隔で配置しながら、歩車道をゆるやかに区切っている。

写真. (例) 歩車道境界の設え

02

歩車道の一体性

歩道・車道が空間的に分かれることのないよう、舗装仕様の統一性などの工夫や歩車道の境界の段差を極力小さくしながら、連続性のある公共空間の検討を進めます。

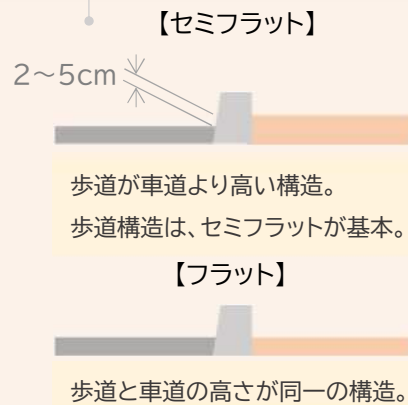


図. 歩道構造形式の検討

03

歩行や滞留の空間

駅前は今後も人が集まるまちなかの拠点の1つとなります。
そのため、道路を歩いてもらう、道路で過ごしてもらうための検討を進めます。



湯本の駅前に相応しい樹種や配置、植栽方法の検討を進めます。

写真. 植栽の検討



照度や色温度に配慮しながら、夜間でも安全に快適に過ごせるよう、歩行動線上への配置や休憩施設などに配置している。

写真. (例) 照明の設え



「通る人」と「過ごす人」のための空間として、歩行空間を確保しながら、休憩施設を配置している。

写真. (例) 休憩施設の設え

検討状況（駅前交通広場）

駅前交通広場は、交通結節点としての機能だけでなく、交流拠点エリアなどとの一体的な空間となるよう、検討を進めています。

01

現状の問題

交通広場では、主に次のような問題が生じています。

- ✓ バス、タクシー、一般車、駐車場利用車などの交通動線が輻輳しているため、接触などの通行上の危険性が懸念される。
- ✓ 駐車スペースを無視した駐車の常態化により、歩行空間が確保できないなど、通行上の危険性が懸念される。
（特に朝夕の時間帯など）
- ✓ 駅前空間については、人が快適に時間を過ごせる空間が少ない。



02

課題への検討

課題の解消や新たなまちづくりに向け、主に次の検討が必要となります。

- ✓ 各種車両の交通動線の整序化について検討する。
- ✓ 交通動線の整序化とともに、歩行動線を整理する。
- ✓ 駅前が交通結節点の機能を確保しながら、歩行者のための空間となるよう、交通広場のコンパクト化を検討する。
- ✓ 交通動線の輻輳の要因の1つであるタクシー待機位置について検討する。
- ✓ 交通広場空間についても、公共交通などの利用者だけでなく、訪れた人のための居場所にもなるよう検討する。

03

検討の状況

検討にあたっては、交通事業者や地域団体、警察機関などとの協議を進めています。

- ✓ 公共交通と一般交通の動線が極力交わらない交通広場として検討中。
（広場内の一方通行化）
- ✓ 交通広場から交流拠点エリアや周辺への安全な歩行者動線を検討中。
- ✓ バスバースは、5バース（乗：4、降：1）から4バース（乗：3、降：1）に縮小することで調整中。
- ✓ タクシー待機場は、現位置から交流拠点施設駐車場敷地へ移転することで調整中。
- ✓ 各乗り場の配置の工夫により、歩行空間や滞留空間を確保できるよう検討中。
（歩道、交通島）

検討状況（駅前交通広場）

参01 滞留空間の検討



駅前に新たな憩いや賑わいが創出できるよう、パークレットのようなファニチャーを配置することで、バスの待合や飲食、休憩など、使う人の目的によって様々なシーンに活用することができる。

写真. (例)滞留空間の設え



写真. (例)自在R連続基礎を活用したパークレットの設置

- ✓ 車両衝突時の安全に考慮
- ✓ 自由な角度で連結可能
- ✓ 置き式のため、設置が容易
- ✓ モビリティの再編・導入に応じ、柔軟性をもった交通広場空間の整備が可能

基盤整備までのステップ

STEP 01

概略検討

新しいまちに望ましい駅前イメージづくりを行う作業



STEP 02

基本設計

概略設計に基づき、新たな基盤整備に向けた大まかな内容を決める作業



STEP 03

実施設計

基本設計に基づき、実際に工事を行うための詳細な検討や設計を行う作業



グラントレベルのデザインは、交流拠点エリアなどの設計時期に合わせて進める予定

基盤整備の実施